

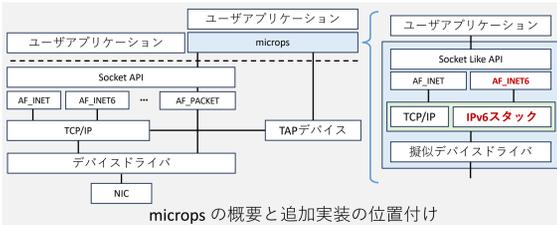
学習用TCP/IPプロトコルスタックのIPv6対応

～アプリケーションプロトコルスタックの利活用～

学習駆動コース 横尾和真

背景: 学習用TCP/IPスタック "microps[1]"

- TCP/IPスタックの自作やソケットプログラミングは、IPv4を前提にした実装が多い
- IPv6の普及率は年々少しずつ増加しており、知らないうちにIPv6を使っている
- カーネルによるTCP/IPの処理は高性能だがブラックボックス状態 → 自作することで理解を深める
- IPv6スタックを追加実装し、公開することで今後IPv6を学習する人にとっても有用なものにしたい!

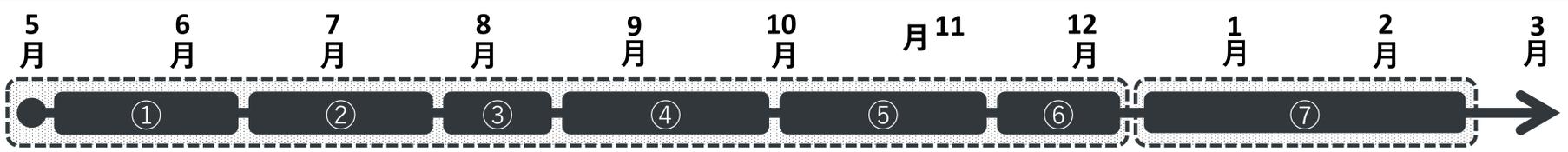


micropsの概要と追加実装の位置付け

実用性の検討

- 実装を進めているうちに、アプリケーションとして動作するTCP/IPプロトコルスタックを「学習用」としてのみ消化するのは勿体無いと感じる様に..
- 実用的なユースケースを考えてみることに!

SecHack365で年間通して行った活動



IPv6 実装

① IPv6 基本部の実装

- FreeBSD の IPv6 実装 (KAME[2]) などを参考に実装
 - 128 ビットアドレスを扱う
 - 標準で 128 ビットを扱える型がないので定義
 - IPv6 アドレスの省略表記に対応した ntop・pton の実装
 - IPv6 ヘッダ構造体の定義
 - IPv6 パケットの入出力・マルチキャストの受信
 - ip6_input / ip6_output

```
typedef struct {
    union {
        uint8_t u6_addr8[16];
        uint16_t u6_addr16[8];
        uint32_t u6_addr32[4];
    } addr;
    #define addr8 addr_un_u6_addr8
    #define addr16 addr_un_u6_addr16
    #define addr32 addr_un_u6_addr32
    ip6_addr_t;
};
```

② ICMPv6 (NDPなど) の実装

- Echo Request/Reply, Destination Unreachable, Packet Too Big, Time Exceeded
- NDP (Neighbor Discovery Protocol)
 - MACアドレス解決
 - IPv6 特有の on-link / off-link に苦戦

```
2001:00db:0000:0000:1234:5678:9abc
↓ (省略)
2001:db8::1234:5678:9abc
```

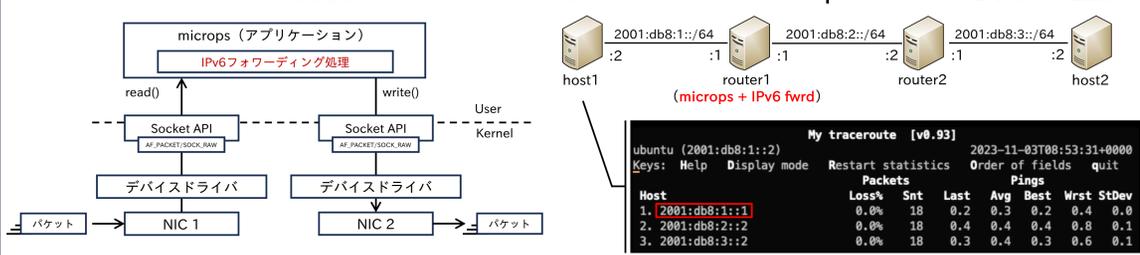
```
01:03:17:708 [I] ip6_devic_init | created link-local address fe80::2001:5eff:fe00:5301, devnet1 (ip6_c:431)
01:03:17:708 [I] slanc_rnd | start SLAAC devnet1 (slaac_c:48)
01:03:17:708 [I] slanc_rnd | fe80::2001:5eff:fe00:5301 > fe80::2 type=1(131), seq_len=1 (od_c:499)
```

③ SLAAC の実装

- Stateless Address Auto Configuration: アドレスの自動設定
 - MAC ドレスを元に拡張 EUI-64 形式でインターフェース識別子を生

④ IPv6 Forwarding の実装

- アプリケーション実装の IPv6 ルータと Network Namespace による動作確認



⑤ Socket Like API の AF_INET6 対応の実装

- microps では、アプリケーション開発がしやすいように Socket Like な API が用意されている (sock_open, sock_close, sock_bind, sock_listen, sock_accept, sock_connect, sock_send, sock_rcv)
 - 「AF_INET6」を扱えるように追加実装
 - sockaddr 構造体の定義 (ntopやptonを含む)
 - アドレスファミリーとアドレスをセットで扱う

⑥ 動作確認 (アプリケーションの実装など)

- Web サーバの実装
 - カーネルとは独立した IPv6 プロトコルスタック上で実装したアプリケーションの一例
- ISIC (IP Stack Integrity Checker) [3] を用いたテスト
 - TCP/IP プロトコルスタックの整合性を確認するツール
 - ランダムなデータを持つ IPv6 パケットを生成し、それらに対して適切な処理ができていけるかをチェック
 - ヘッダに含まれる Length Field の値と実際のパケット長の整合性の確認不足による Segmentation Fault を確認・修正

```
typedef struct {
    unsigned short family;
    union {
        ip_addr_t u_addr4;
        ip6_addr_t u_addr6;
    } ip;
    #define s_addr4 ip_un_u_addr4
    #define s_addr6 ip_un_u_addr6
    ip_addr_t;
};
```

```
【エンドポイントを表すフォーマット】
[2001:db8::1234:5678:9abc]:8080
```

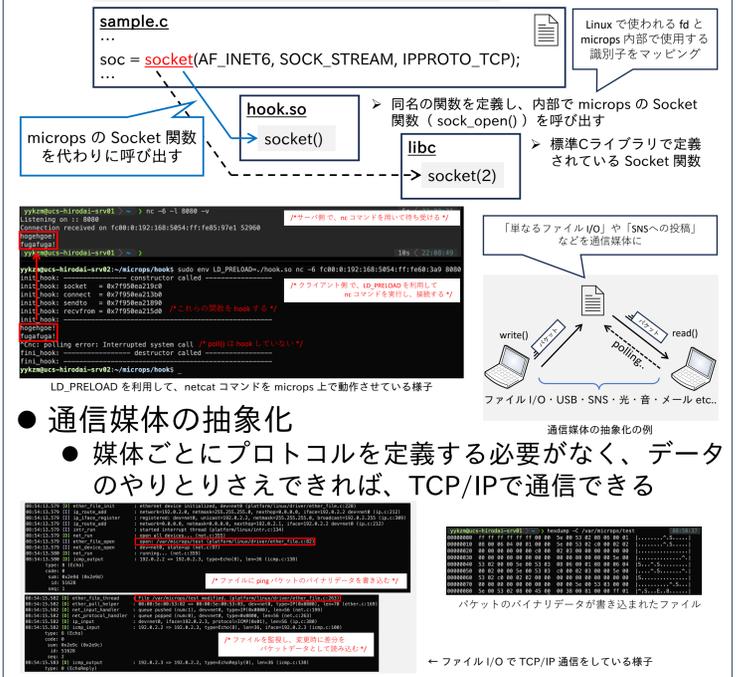
```
01:03:17:708 [I] ip6_devic_init | created link-local address fe80::2001:5eff:fe00:5301, devnet1 (ip6_c:431)
01:03:17:708 [I] slanc_rnd | start SLAAC devnet1 (slaac_c:48)
01:03:17:708 [I] slanc_rnd | fe80::2001:5eff:fe00:5301 > fe80::2 type=1(131), seq_len=1 (od_c:499)
```

```
2001:db8:1::1 2001:db8:2::2 2001:db8:3::2
1. 2001:db8:1::1 0.0% 18 0.2 0.3 0.2 0.4 0.0
2. 2001:db8:2::2 0.0% 18 0.4 0.4 0.4 0.8 0.1
3. 2001:db8:3::2 0.0% 18 0.3 0.4 0.3 0.6 0.1
```

実用性の検討

⑦ 実用性の検討 & プロトタイプの実装

- アプリケーションスタック (microps) の特徴
 - ライブラリ化されており、Socket Like な API も提供されているため、プロトコルスタックを含めて1つのアプリケーションとして動作可能
 - あくまでもアプリケーションとして動作するので、カーネル保護機構を使える
 - カーネルをビルドせずに、アプリケーションごとにネットワーク機能の追加やアップデートが可能
 - 通信媒体の抽象化が比較的容易に実現できる
 - microps 上で動くキラーアプリケーションも含めて実装する必要がある
- 既存アプリの再利用
 - 既存のアプリケーションを自作スタック上で動かすことができれば、キラーアプリケーションを実装することなくアプリケーションスタックの恩恵を受けられる → 環境変数 LD_PRELOAD を利用
 - 置き換えたい関数を定義した共有オブジェクトを指定して実行することで優先してリンクさせられるため、標準ライブラリの特定の関数を自前のものに置き換えられる



```
sample.c
...
soc = socket(AF_INET6, SOCK_STREAM, IPPROTO_TCP);
...

hook.so
...
同名の関数を定義し、内部で microps の Socket 関数 (sock_open()) を呼び出す
...

lib.so
...
標準Cライブラリで定義されている Socket 関数
-> socket(2)
```

BLOG での手順公開

- micropsは、作者の方が日本語のドキュメントを無料で公開しており、誰でも取り組みやすい内容になっている → IPv6 対応を Next Step として取り組めるように手順を公開
- https://blog.hatena.ne.jp/y_kzm